

岩下 夏岐

1. 事業実施の目的

タイでの長期フィールドワークに向けた調査活動

2. 実施場所

タイ バンコク、パトゥムタニ県、ラヨン県

3. 実施期日

2021年 12月 6日（月）～ 2021年 12月 23日（木）

4. 成果報告

●事業の概要

本事業は、申請者の研究（題目；タイの高齢化対策を実践する医療福祉現場の民族誌的研究）において、以下の三点を目的として実施した調査活動である。

1. 2022年4月からの長期フィールドワークに向けた調査地での情報収集
2. タイの高齢者に対するリハビリテーションおよび予防施策に関する調査
3. 受け入れ研究機関での情報収集

これら三点の目的に沿って、事業の概要を報告する。

1. 2022年4月からの長期フィールドワークに向けた調査地での情報収集

1-1. 調査地の概要

調査地である Bueng Yitho Day Care and Day Service（以下、デイケア）は、バンコクから北に約 40km の地点にあるパトゥムターニー県ブンイトー市にある。当該施設は 2019 年に開設した通所型の高齢者のためのリハビリテーション施設で、市が運営している。開設にあたって、ブンイトー市の職員らは、日本の介護保険制度下のデイサービスやデイケアを見学したそうである。

申請者は、これまで新型コロナウイルス感染症の影響によって渡航できなかったが、今回、初めて施設見学とスタッフとの面会が実現した。またデイケアにおいて数日間、ボランティアとして活動に参加することができた。

デイケアでは、概ね 70 歳上の高齢者がサービスを利用しており、最高齢では 90 歳以上の利用者もいた。1 日あたりの利用者は 9-10 人程度である。サービスには、自宅とデイケア間の送迎と昼食、おやつが費用に含まれており、利用料は 1 日あたり 300 バーツである。デイケアを利用すると隣接する市立病院の治療、例えば、医師の診察と健康指導、臨床心理士や理学療法士によるリハビリテーション、タイ伝統医療や中国伝統医療を受けることができる。また午前 9 時頃に来所して、午後 4 時頃に帰宅するまで、デイケアではゲームや手芸等のレクリエーションを行っている（図 1）。

デイケアに勤務するスタッフは、デイケアのセンター長である医師、看護師、理学療法士2名、助手、ケアギバーと呼ばれる有償ボランティアなどがいた。中でも有償ボランティアは、10名がデイケアに登録して交代で業務にあたっているが、年配の女性が多い印象を受けた。

今回のデイケア訪問やスタッフとの面会によって、デイケアのセンター長である医師や現地スタッフからは、申請者の長期フィールドワークについて「歓迎する」といった肯定的なコメントを頂くことができた。



図1 デイケアでのレクリエーションの様子

1-2. 生活環境について（コロナウイルス感染症防止策等に関する情報収集）

デイケアや隣接する市立病院に限らず、周辺地域の市場やショッピングセンターなど、あらゆる場所で検温と手指消毒が徹底されていた。また市民にマスク着用の習慣が浸透している印象を受けた。施設見学の前には抗原検査が求められるなど、日本の感染防止対策と遜色ない体制が整っているように思われた。

生活環境について、デイケア周辺には終日、交通量の多い主要幹線道路が通っており、通勤は徒歩では困難であると思われる。周辺の賃貸物件を3箇所ほど見学したが、いずれもバイクや車で通勤する必要がある。交通量だけでなく、街灯の有無、治安等について情報収集を行った。渡航日が正式に決定した際は、デイケアスタッフが物件を探して入居するまでサポートしてくれるとのことであったので、今後、デイケアスタッフの助言に従って住居を検討する。

2. タイの高齢者に対するリハビリテーションおよび介護予防施策に関する調査

調査期間中、次の施設を見学した。

1. ブンイトー市の高齢者の健康増進活動を実施するコミュニティセンター
2. ブンイトー市の隣にあるランシット市の保健センター
3. ラヨーン県タップマー市の高齢者生活・職業サポートセンター

上記の施設を見学し、現地スタッフに実施している施策や提供しているサービス内容等について尋ねると、現状、主に壮健な高齢者の健康増進活動に関するサービスが中心であ

る印象を受けた。ブンイトー市のコミュニティセンターでは、ダンス教室（図2）や体操教室を実施していた。ランシット市の保健センターでは、マッサージやタイハーブ治療といったタイの伝統医療を受けることができる。タップマー市の高齢者生活・職業サポートセンターでは、養蜂園の業務に近隣の高齢者が参加し、手作り石鹸等の商品を作っていた。これらの高齢者のための施策は、いずれも高齢者自身が自力で施設を訪れる必要があった。ブンイトー市のデイケアのように、自力で外出が困難な高齢者や虚弱高齢者を対象とした通所型のサービスは現状、提供していないとのことであった。



図2 ブンイトー市コミュニティセンターでの活動の様子

3. 受け入れ研究機関での情報収集

12月14日にタマサート大学（バンコク、タープラチャンキャンパス）において、Social Administration 学部ラピーパン教授、ペンプラファ教授らと面談した（図3）。申請者が2022年4月より外来研究員として1年間、受け入れることに了承して頂いた。



図3 ラピーパン教授との面会の様子

●本事業の実施によって得られた成果

○これまでオンラインでの情報収集には限界があった。今回、学生派遣事業による現地での調査活動で得られた情報によって、長期調査に向かう前に研究計画の見直しなど課題がみえてきた。改めて、博士論文研究の計画の見直しや研究の問いの見直し、研究の渉猟等おこない、長期調査に臨みたい。

○今回の渡航でデイケアスタッフや利用者である高齢者らと直接、面識を得ることができた。これにより次回の長期調査では、より円滑にデイケアの活動に参加し、参与観察が可能となる。

○受け入れ研究機関であるタマサート大学の教授らと会話する中で、申請者の博士論文研究について建設的な助言を頂くことができた。これら助言を参考にして、今後の研究に繋げたい。

●本事業について

今回、学派遣事業に参加して、タイで調査活動することができ、今後の博士論文研究に有用な情報収集ができました。加えて、今後の長期調査による海外生活という観点では、コロナウィルス感染症の拡大という不安定な状況の中で、可能な限り安全対策を図るための準備が可能となりました。この度、このような機会を頂きましたことに深く感謝申し上げます。